

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

原発・防災・教育・子育て 市議団が政府交渉

松江市11月議会日程

12月2日 (月)	代表質問
12月3日 (火)	一般質問
12月4日 (水)	一般質問
12月5日～10日	各委員会
12月13日 (金)	予算委員会

11月議会は、11月27日から12月17日までの会期で開催されます。
12月2日が、吉儀敬子市議の代表質問。市長の政治姿勢

11月議会も憲法・平和・原発問題を貫く

3日が田中肇市議の1問1答質問。水害と市庁舎、原発問題、保育料無償化に伴う保育施策、教育問題等について取り上げます。
4日が橋本朗市議の一括質問です。消費税問題、自治体のパワハラ・セクハラ対策、公営企業における労使の現状等について取り上げます。
議会に提案される議案は、燃やせる45リットルのごみ袋



申し入れを行う、松江市議団と大田県議ら

の申し入れ、また、保育の無償化や子どもの通学路の安全対策など、担当部局の考え方を聞きました。今回の申し入れには大平喜信前衆議院議員が同席しました。
原発問題では、原子力規制庁に対して田中議員は、適合性審査の状況について、規制委員会が地元住民に説明すべきと求めました。また橋、田中両市議は原発マネーの還流問題について、還流した金の原資は安全対策工事費を含み、工事の手抜きも疑われ、原発稼働の条件はないことを訴えました。
防災では、国土交通省に對

して、橋・吉儀両市議は、松江市が宍道湖・大橋川・中海に面しており、水害の危険性があること、また急傾斜地対策が遅れていることをとり上げ、気象変動に伴う防災・減災対策の充実を求め、予算の大幅増を求めました。

中国ブロックいっせい宣伝

日本共産党の中国ブロック一斉宣伝日の11月15日、尾村利成県議、橋本朗、田中肇の両松江市議、岩田剛東部地区委員長が市内で宣伝しました。
橋本朗は、11月11日に行つた政府交渉で島根原発の稼働



宣伝する(右から)尾村、田中、橋、岩田の各氏

最後に尾村県議が、「桜を見る会」問題について、「国政私物化の究極の表れで、国会では野党合同の『追及チーム』ができるなど画期的な動きが進んでいる。野党と国民世論で安倍政権を追い詰めよう」と呼びかけました。

文科省に対しては、田中市議が教師としての体験から、教育現場の実態を無視した「1年単位の変形労働時間制」法制化の中止を求めました。その他、民間英語試験導入の中止、トイレの洋式化、校舎・施設の耐震化などの予算増額を要望しました。
農水省に対しても食料の自給率向上で農業を守るよう求めました。
松江市菅田町にある重要文化財の茶室「菅田庵」(かんでんあん)が、4年の歳月をかけ70年ぶりの修復工事が完成しました。11月23日に竣工記念茶会があり、筆者も参加しました。門をくぐり、正面から苔の道を通り、紅葉で色づく楓の馬場を経て、池に沿う道を上がっていくと、やがてかやぶきの建物が見えます。ここが菅田庵で、木立ちの中から抜け出て突然市内が眺望できる庭に立つ、という対比の妙があります▼菅田庵は、1792年に松平不昧の指図で全体計画が立てられ、家老有澤式善の山荘に建てられた小さな茶室です。待合として蒸し風呂がついた「御風呂屋」があり、不昧の弟・雪川の設計で建てられた「向月亭」と庭を合わせ、全体として菅田庵と呼んでいます。明治になつてからも有澤家などにより保護され、場所も移さず創建当初の姿をよく伝えています。松平不昧42歳の時の設計で、とても独創的で周りの環境に良くなじんでいます▼松江に、また貴重な文化財が姿を現しました。山荘にかやぶきの茶室で、蒸し風呂付とはいかにもユニークです。しかも文化庁が力を入れたすばらしい修復で、日本建築に関心がある人には、またとない知る機会が訪れました。一般公開は来年春からです。(和)